

Ⅱ. レクチャーシリーズ

2017年10月、2018年1月と2月に、本センターの重要な事業のひとつである「レクチャーシリーズ」の収録を行った。これはさまざまな領域を専門となさっている研究者を講師に招き、高大接続に関する話題について講じて頂き、それを収録して本センターのWEBページで広く配信するもので、本年度は合計3本を制作した。

高大接続改革により「大学入学共通テスト」に英語4技能を測定する外部資格試験が導入されることになったが、そのほとんどはIRTをベースにして得点尺度を構成しており、実際のテストはコンピュータベースのテスト、CBTである。このCBTとIRTの概要や問題点について講じた野口裕之先生のレクチャーは、本学の高等教育研究センターと共催の「第144回招聘セミナー、第4回『アドミッション担当教職員支援セミナー』」の公開講演会としても開催され、これを収録した。また、高大接続とキャリア教育について講じた今津孝次郎先生のレクチャーと、高大接続で問われるべき能力と適性の測定について講じた村上隆先生のレクチャーを学内で個別に収録した。本稿はその逐語記録である。

なお、この様子を収録した動画は本センターのWEBページの「レクチャーシリーズ」で、すでに配信されている。(http://chet.educa.nagoya-u.ac.jp/?page_id=97)

1. 「IRTとCBTの光と影－高大接続改革の夢か現か幻か－」

野口 裕之

2. 「高大接続を目指す『キャリア教育』

－『ボランティア』から『サービス・ラーニング』そして『インターンシップ』へ－

今津 孝次郎

3. 「高大接続で問われるべき能力と適性とは？」

村上 隆